

# 会館だより

---

---



2015年 8月号

No. 314



公益財団法人 日中友好会館

---

---

## 目次

### 就任ご挨拶

中国代表理事 鄭 祥林

### 行事案内

#### 《日中友好会館美術館》

- ・ 共催展「国墨・東瀛—中国当代著名画家作品展」
- ・ 貸美術館催事「日中魂の響き—陳宏美術作品展」
- ・ 貸美術館催事「筆之友選抜書展」

#### 《日中友好後楽会》

- ・ 2015年中国旅行について
- ・ 談話会について

### 活動記録

- ・ 主催展「ピリリ！と面白い 中国漫画展」を終えて
- ・ 新疆籍優秀自費留学生奨学金の授与式に参加して
- ・ 初夏の中日交流—柴又帝釈天と立食晚餐会
- ・ 後楽寮納涼会
- ・ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第20陣が来日
- ・ 「JENESYS2.0」中国社会科学院青年研究者代表団第1陣が来日
- ・ 「JENESYS2.0」2015年度中国高校生訪日団第1陣が来日
- ・ 「JENESYS2.0」中国母子保健代表団が来日

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

四川省棒遣い人形劇より「八陣図」（「三国志」より）

今秋の「中国文化之日」には、四川省より棒遣い人形劇団が来日予定です。また同時開催として棒遣い人形を展示いたします。詳細は次号でご案内いたします。

## ● 就任ご挨拶 ●



公益財団法人 日中友好会館  
中国代表理事 鄭 祥林

この度、日中友好会館に派遣されました。16年ぶりの東京勤務になります。これまで40年の外交官生活の中、半分は日本との関わりでしたので、今回の東京勤務はたくさんの老朋友との再会もあり、格別楽しく印象深いものになっています。

久しぶりに街を歩いて見て感心したのは、東京は相変わらず落ち着いた雰囲気を持っていて、綺麗で、人々は秩序よい行動をとっています。地下鉄や公共施設は一段と良くなり、さまざまな分野におけるサービスもさらに磨きがかかってきたように感じられます。

一方、いろいろなところで、中国からの観光客だと思われる中国語の会話も耳に入り、ショッピングや日本料理などを楽しんでいる中国人観光客の姿をみると、隔世の感を覚えます。

日中友好会館の仕事は特別の事業なので、日本の方と一緒に仕事することは楽しみでもあり、新たな気持ちでチャレンジしていきたいと思っています。着任して間もありませんが、日中友好会館はその名のとおり、中日両国人民の相互交流と相互理解を深めていく日本における拠点の一つであります。個人の力は微力ですが、皆の力を結集して、一衣帯水の我々両国民の間の友情をより一層深めていく為に、共に頑張っていこうではありませんか。



## ● 行事案内 ●

### 日中友好会館美術館

#### ◆共催展「国墨・東瀛—中国当代著名画家作品展」

会期：2015年8月10日(月)～8月15日(土)  
 時間：10:00～17:00 (初日は15:00より)  
 入場料：無料  
 開幕式：8月10日(月) 15:00～  
 主催：中華文化促進会、北京国一金典国際文化伝播有限公司、(公財)日中友好会館  
 後援：中国駐日大使館、(公社)日中友好協会、(一財)日中文化交流協会、(一社)日中協会、中国文化信息協会

#### ◆貸美術館催事 「筆之友選抜書展」

会期：2015年8月18日(火)～8月23日(日)  
 時間：10:00～17:00  
 開幕式：なし 最終日は16:00まで  
 主催：書道奨励協会  
 入場料：無料

【問合せ】書道奨励協会

小泉 TEL 049-244-2222



本展では、12名の中国当代の著名書画家による佳作を約50点展示します。12名の芸術家は中国当代書画芸術の代表人物であり、中国伝統文化に根をおき、時代を反映する作品を創作し、著しい成就をあげています。本展が中日文化交流の架け橋になることを心から願っております。

【問合せ】文化事業部 TEL 03-3815-5085



## 日中友好後楽会

### ◆2015年中国旅行について

本年の後楽会中国旅行が決定いたしました。日程は2015年11月5日(木)～11月9日(月)、4泊5日です。会員の方も非会員の方も大歓迎です。日程が短めで参加しやすいと思いますので、ぜひこの機会にお誘い合わせの上、ご参加ください。

#### ○ポイント

- ・後楽会(中国)友好聯誼会(歴代の元後楽寮生と元職員で組織された会)が開く、年に一度の総会パーティに参加し、懐かしい面々と再会、交流できます。パーティには約80名が参加予定です。
- ・元後楽寮生のご厚意により、ご希望の方にはお宅にホームステイ1泊をしていただくことができます。  
北京の一般家庭の生活を体験する良い機会になるかと思えます(希望されない方はホテル泊)。
- ・北京の新しい見学スポットを巡るコースを予定していますが、北京が初めての方には、故宮や万里の長城などのオプションコースも用意しています。
- ・2008年に開通した高速列車(最高時速330km所要30分)に乗って天津へ行き、名所を日帰り見学します。

お申込みの締切は8月20日となりますが、ご希望の方はお早目にご一報いただきますようお願いいたします。

(担当：小林)

### 2015年中国旅行

日程：11月5日(木)～11月9日(月) 4泊5日

行先：北京市、天津市

「懐かしく新しい北京・天津5日間」

1日目：国際便にて羽田空港より北京へ。着後、前門大街見学。

2日目：北京市内新スポット見学(国家博物館、南鑼鼓巷等)

※オプションコース：万里の長城、故宮博物院等

夜、希望者は元寮生宅へホームステイ

3日目：北京市内見学(鳥の巣、恭王府、白雲觀等)夜、後楽会(中国)の交流パーティに参加。

4日目：天津日帰り見学(静園、古文化街等)

5日目：午前、自由行動、午後、北京より羽田へ帰国。

参加費用：会員 ￥191,000/1名、(ホームステイ希望者￥176,000)

(2人一部屋利用の場合、国際線燃油チャージ代別)

詳細は事務局へお問い合わせください。

### ◆談話会について

8月はお休みし、9月の談話会の詳細は9月号にてお知らせいたします。

#### 【申込み・問合せ】

後楽会事務局 緒方、小林、大竹

電話：03-3811-5305 FAX：03-3811-5263

メールアドレス：kourakukai@jcfcc.or.jp

## ● 活動記録 ●

### ◆主催展「ピリリ!と面白い 中国漫画展」を終えて

2015年5月28日～6月28日の会期で行われた主催展「ピリリ!と面白い 中国漫画展」は、多くのお客さまにご来館いただき、好評のうちに閉幕いたしました。



展示会場の様子

中国漫画界を牽引する浙江省嘉興市で開催された全国漫画コンテストや国際展で受賞した作品から、2010年代に創作された60点を厳選して展示しました。環境汚染、食品の不安、政治の腐敗など、中国の現代社会の問題を辛辣かつユーモアに描いた作品が勢ぞろいしました。ご来場の方からは、「日本人にも共感するところが多かった」「見る機会がなく、初めて知れて良かった」「中国の事情がよく理解できた」などの好意的な感想を数多く頂き、他催事の時に比べて20～30歳代の若い年齢層の方の来場が目立ちました。



開幕式での寄せ書き

初日の開幕式では、中国代表団として中国の著名漫画家 徐鵬飛先生をはじめとする3名や、後援団体の(公社)日本漫画家協会 ちばてつや理事長、(一財)日本漫画事務局八月十五日の会 森田拳次代表理事をはじめ多くの日本の漫画家の皆様、ほかご来賓にお集まりいただき、記念の寄せ書きを行いました。

また、会期中にはイベントをいくつか企画しました。6月5日の後楽寮生の王玉紅さんによる古琴のミュージアムコンサートでは60名の方に来場いただきました。6月9日は日本絵手紙協会公認講師の植木啓子さんによる絵手紙体験講座を開講し、20名の日中両国の方が参加しました。6月16日にはNHK解説委員の加藤青延さんを講師に迎えて「漫画から読む中国現代ニュース」というテーマで中国の現代社会の問題をいくつか実例や体験を交えて分かりやすくお話していただき、約90名が参加し、大変好評でした。



加藤青延氏による講演会

漫画の展示は会館美術館にとって新たな分野でしたが、どなたにも分かりやすく面白く、そして訴える力を持つ総合芸術であると実感しました。これからも中国各地の素晴らしい文化芸術の紹介を通して、日中の交流に尽力していきたいと思っております。

(文化事業部)

## ◆新疆籍優秀自費留学生奨学金の授与式に参加して

6月19日、私は寮生の代表として、中国大使館で行われた新疆籍優秀自費留学生奨学金の授与式に参加しました。程永華大使は北海道大学、千葉大学などで学ぶ新疆籍優秀留学生に奨学金と賞状を授与しました。その中で、我々後楽寮の凱迪麗婭・亜力坤さんも受賞しました。



受賞者と参加者

凱迪麗婭さんは私の友達で、後楽寮の優秀寮生です。彼女は東京医科歯科大学で勉強しています。だから、自分の専門知識を用いて後楽寮の医療ボランティアとして、寮生の皆さんに医療サービスを提供しています。将来の夢について、凱迪麗婭さんに聞くと、もちろん新疆に戻って、立派な医者になることだと答えました。

このような話を聞いて、私は少し感動しました。私は新疆ウイグル自治区に生まれた漢族です。漢族の学生たちはほかの都市で大学に進学し、卒業したら、その都市で仕事をし、新疆から引っ越すことが多いです。それに対して、多くのウイグル族の学生たちは新疆に戻る意欲を強く持っています。

今回授賞した新疆籍の留学生たちは様々な分野を勉強しています。皆将来、自分の知識を活用して、新疆に貢献するという答えが一番多いです。新疆和田県からの地理情報専攻

の男子学生は新疆の雪山と砂漠の3D地図を作り上げたいと答えました。北海道大学で医学専攻の女子学生は新疆の病院で、医者として、研究を続けることを志望しています。もちろん、日本語がペラペラな方は日本で就職してもよいと言っていました。しかし、彼は私が新疆ウルムチ市の出身と知った時、すぐウルムチ市の公共バス路線を思い出して、幸せな通学路の記憶が溢れでてきました。

日本語では「故郷忘じがたし」という言葉があります。故郷はいつになっても懐かしく、忘れがたいものです。私たち留学生はこの懐かしい想いを心に刻んだだけではなく、自分の知識を活かして、故郷がより美しくなるために、祖国に貢献するべきです。将来、新疆に帰った私たちは時々日本での大学生活を思い出すでしょう。日本と新疆は常に心の中で長い糸のようにつながっています。私もその懸け橋になればもっと成長する事と思います。

(後楽寮生 段潤)

## ◆初夏の中日交流 —柴又帝釈天と立食晚餐会

6月20日、梅雨の最中、待ちに待った好天が訪れた。午後14:30、後楽寮前に集まった中日交流会の一行24人(寮生16人、日本の方8人)は、二頭の石獅子に見送られ、葛飾区へ向けて出発した。山田洋次監督の映画『男はつらいよ』シリーズで知られる柴又帝釈天の参道を歩きながら、記念写真を取ったり、笑い話をしたり。「人が多いからはぐれないようにね」と先頭を歩いている私が呼びかけた。「陳さん、今日は幼稚園の先生モードですよね」と、大笑いした皆さん。

柴又帝釈天に着き、袴田さんが中国語でお寺を紹介してくださった。日本ではお寺に入

る前には靴を脱ぐことを初めて知った李宗俊さんが「日本の仏教は中国から学んだが、中国のお寺は汚いのに、日本のお寺は床さえこんなにきれいだ」と感心した。日本のお寺や神社は素朴で装飾が少ないのが特徴だが、柴又帝釈天は窓や扉に精緻な木彫りが飾られ、皆さんは来た甲斐があると感嘆し続けた。



参加者の皆さん

その後、近くにある日本庭園で自由に散策した。庭のひっそりと静かな小道を抜け、目の前に広がったのは鮮やかな緑だった。江戸川沿いの歩道を通って、金町駅まで歩いた。

新鮮な空気、きれいな芝生、さわやかな風、つい深呼吸したくなるような風景だった。皆さんは、記念写真を撮ったり、語学練習を兼ねてお話をしたり、ときどき笑い出したり、歌声をあげたり。すれ違うおばさんが楽しいね、とうらやましそうに声をかけてきた。なんと、私たちもすでに風景になっていたのだった。

金町駅から綾瀬駅までは電車で移動。勤労福祉会館で立食の晩餐会が設けられた。お刺身、お寿司、肉ジャガ、サンドイッチなどに加えて、生ビールと赤ワイン、そしてデザートとフルーツ。食べて、飲んで、話して、一日の疲れが一気に飛んだ。歓談の間の抽選会で、当たった方が活動参加の感想を発表した。楽しかった、またこういうイベントがあつてほしい、また行きたい、料理が美味しかった

とありがたいコメントをたくさんいただいた。



抽選会での一コマ

帰り道の電車の中でも、それぞれの交流が続いた。夜8時半頃、大手町駅で、とうとう日本人の方々と別れるときが来た。名残り惜しいが、また一緒に交流会をやろうと約束した皆さん。いい思い出になったなあと、疲れながらも主催者の一人として、すこし誇りに思った私だった。

(後楽寮生 陳昭)

## ◆後楽寮納涼会

7月4日(土)、夜8時から「後楽寮納涼会」を行いました。実験や論文作成等に毎日頑張っている寮生に少しでも息抜きをしてもらおうと、昨年に引き続き留学生事業部が主催、寮生委員会にも協力をしていただき大成功の会となりました。

当日は鄭祥林理事ご夫妻や大使館教育処の方達も参加してくださり、寮生と交流をしていただきました。また実施にあたり武田理事長をはじめ多くの職員の皆様や業者の方にもカンパや物品提供などご協力をいただき感謝しています。

教育処の喬穎二等書記官の挨拶の後、鄭理



事の乾杯で納涼会がスタート、交流やカラオケが始まりました。寮生達は各自で生ビールをサーバーから注いだり、ソフトドリンクを飲んだり、お菓子や果物を食べたりしながら、普段着のまま楽しんでいました。



リラックスした寮生達

今年は寮生達に、より夏の雰囲気味わってもらおうと、わたあめ機や輪投げゲーム等を準備しました。寮生は長蛇の列を作り、はじめて自分で作るわたあめに大興奮の様子でした。また、輪投げゲームでお菓子やビールなどを獲得しようと必死になって挑戦したり、残念賞の飴をもらってちょっと喜んだりといろいろな表情も見受けられました。

この時期は論文発表や日本語検定試験の時期で、寮生にとっては慌ただしい時期でしたが、普段とは違いリラックスした様子でした。来年も様々な工夫をして第3回目の開催をしたいと思っています。

(留学生事業部)

## ◆「JENESYS2.0」中国大学生訪日 団第20陣が来日 一行99名が東京・宮城・岩手を 訪問

2015年6月2日から6月9日までの日程で、中国大学生訪日団第20陣(団長=朱丹 中国日本友好協会・副秘書長)が来日した。本団は、中国の四川省・雲南省・貴州省で教育を専攻する学生で構成された計99名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京、宮城、岩手を訪問し、日本の大学生との交流、教育をテーマとしたセミナー、教育委員会によるブリーフ、教育現場の視察など教育に関連した活動のほか、世界遺産や「クールジャパン」を体感できる施設を視察し、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めた。

### 教育を学ぶ日本の大学生と交流、友好を深める

東京では東京学芸大学、宮城では宮城教育大学を訪問し、教育を学ぶ日本の大学生と交流し、友情を深めた。東京学芸大学では「日本の教育と教師」というテーマで、岩田康之東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター教授よりセミナーを受けた。学校制度や教師の養成、学習指導要領など網羅的な内容のほか、教育格差拡大の危険性や詰め込み教育とゆとり教育の弊害、学級崩壊など日本の教育界が直面する課題についても紹介され、来日したばかりの団員が日本の教育について広く理解する充実した内容だった。その後、日本の学生と一緒に、昼食交流会とキャンパスツアーを行った。宮城教育大学では、「国際・異文化理解」をテーマとした授業に参加した。日本と中国の文化の共通点や相違点について、日本の大学生と一緒に考え、直接話し合うことで、相互理解を深める良いきっかけとなった。どちらの大学でも温かい歓

迎を受け、同じ教育を学ぶ大学生同士話題が尽きず、団員たちは楽しいひと時を過ごした。



東京学芸大学の大学生と一緒にキャンパスツアー

### 宮城県の「志教育」を学び、子どもの学びを主とした教育現場を視察

宮城県教育委員会からは、子どもたちが社会の中で自己が果たすべき役割を考え、将来社会人としての生き方を自ら模索していく

「みやぎの志教育」と「県の学力向上策」についてブリーフを受けた。自らの「夢」を、社会に貢献するための「志」を育てていくという教育内容は、使命感の強い団員の心に響いたようで、質疑ではたくさんの質問が挙がり、団員自らの「志」について考える貴重な機会となった。

宮城教育大学附属小学校では、「子どもが主体的に学ぶ授業」をテーマとした公開授業を見学した。国語、算数、図工、家庭科のほか、野菜を育てる生活、電子黒板やタブレットを取り入れた英語など、実践に根差した授業を見学し、最後には6年生の素晴らしい合唱発表を聞き、皆深く感動した様子だった。子どもの総合的な能力の育成を重視する授業に、驚きと興味を覚えたようで、団員それぞれが教育や教師の在り方を考える、収穫の多い訪問となった。

団員からは、各訪問先での交流を通じ、「同じ目標を持つ日本の大学生に親近感を感じ、

お互いの良い点を今後も学びあいたいと思った」、「授業が一方的ではなく相互に行うことで、子どもに学ぶ楽しさを与えている点が参考になった」、「いきいきと授業に参加する小学生を見て、彼らの自分で考える能力の高さは学ぶべきだと思った」、「自らが社会にどう貢献すべきか考える教育に日本国民の高い教養を感じた」などの感想が聞かれた。今回の交流を通じて日本に対する印象が変わったという声も多く聞かれた。



宮城教育大学附属小学校で生活の授業を見学

そのほか一行は、東京では国会議事堂、皇居二重橋、浅草寺、東京タワー、国立科学博物館での参観を通じクールジャパンを実感したほか、森ヶ崎水再生センターで環境保護の大切さについて学んだ。宮城では青葉城址、大崎八幡宮、石ノ森萬画館のほか、仙台市博物館では魯迅記念碑を参観した。また、日本三景の松島、岩手県で世界遺産平泉を参観し、こけしの絵付けや藍染めを体験し、地域特有の文化・歴史に触れた。8日間の充実した日程で、日本の文化や社会について見聞を広め、日本に対する理解や関心を高めるきっかけとなったようだった。

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

## ◆「JENESYS2.0」中国社会科学院 青年研究者代表団第1陣が来日

2015年6月10日から6月17日までの8日間、中国社会科学院が派遣する中国社会科学院青年研究者代表団第1陣一行24名(団長＝李林 中国社会科学院法学研究所・所長)が来日した。外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

代表団は、東京、京都、大阪を訪れ、訪日テーマ「法治社会建設」に基づき、法務省や東京大学、京都大学、日本弁護士連合会でブリーフや講演を聴講し、日本の研究者や専門家と意見交換を行ったほか、最高裁判所訪問や京都地方裁判所の裁判傍聴を通じ日本の司法機関の役割について理解を深めた。そのほか、日本の政治、先端技術、環境、歴史、文化など、さまざまな分野の視察、参観等を通して包括的な対日理解を深めた。

### 法治社会建設をテーマに日本の専門家と交流

代表団は、東京で日本弁護士連合会を訪問し、概要説明や弁護士資格の取得方法、法教育などの説明を受けた。法教育については弁護士が法教育に取り組む理由や実践例を挙げて具体的な説明がなされた。また大村敦志東京大学大学院法学政治学研究科教授より、日本の司法制度改革及び法教育・法学教育に関する講演を聞いた。団員からは法学部と法科大学院の教授方法の違いなどの質問が多く出された。法務省ブリーフでは、日本の三権分立、裁判所の構成、法務省が実施している法教育の取り組みなど行政の立場からの説明があった。最高裁判所訪問では当会館の江田五月会長が同行し、小法廷、大法廷を見学したほか、大法廷にて裁判官と原告が対面する着席スタイルなど法廷の建築設計に込められた司法の考え方などについて聞いた。京都では、京都地方裁判所を訪問し、裁判員制度の説明や関連DVDを視聴したほか、道路交通法違反

案件の審理を傍聴した。京都大学大学院法学研究科との交流では、毛利透教授より日本の立法・司法について発表があり、団員代表も中国法治社会の目標、社会保障の現状について発表を行い、活発に意見交換を行った。



最高裁判所で江田五月会長（前列右6）を囲んで

これらの訪問・視察、関係者との交流を通じて、団員は日本の立法、司法制度について総合的に理解を深めた。

### 最先端技術、歴史文化や自然など、日本の魅力に触れる

そのほか一行は、東京で先端技術館 TEPIA や皇居二重橋、浅草を視察・参観した。京都では世界遺産の金閣寺や二条城、清水寺を参観、西陣織会館にて機織り体験を行った。大阪では関西リサイクルシステムズ(株)を訪問し日本の家電リサイクルについて学び、生産ラインを視察した。多彩な活動を通じて日本の先端技術、文化、歴史、自然に親しみ、さまざまなクールジャパンに触れることができた。

団員からは、「国民に対する法教育の普及過程や先進的な法治理念が印象深かった」「三権分立における裁判所の権限、裁判員制度の説明や裁判傍聴を通じ、日本の司法制度を体系的に理解できた」「大学教授との交流で日本の立法、司法について全面的に学ぶことができ

た」など思い思いの感想が聞かれた。8日間の訪日活動を通し、それぞれが今回の訪日で得た成果を今後の研究や生活に生かしていこうと強く意識する貴重な機会となったと思われる。



京都大学で日中代表者の発表を終え、  
活発な意見交換を行う

本団の受け入れにご協力下さった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

## ◆「JENESYS2.0」2015年度中国高校生訪日団第1陣が来日 東京・千葉・大阪で日本高校生と交流

2015年6月16日から6月24日までの9日間、2015年度中国高校生訪日団第1陣(総団長=陳俊傑 内蒙古自治区教育厅 高等教育処 処長)が来日した。本団は、内蒙古自治区・江蘇省・吉林省・湖南省から選抜された高校生と引率の計200名で、外務省が実施する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

訪日団は、東京都をはじめ、千葉県・滋賀県・京都府・大阪府を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力・強みを体感したほか、高校や大学の訪

問・日本大学生との交流を通じて、同世代の青少年同士の友好交流と相互理解を深めた。

## 水問題をメインに環境保護・省エネルギーについて多角的に学ぶ

訪日団は、水ジャーナリスト、アクアスフィア代表の橋本淳司氏より、「水から考える持続可能なまちづくり」というテーマで講義を受けた。講義では、日本国内・海外での水の環境保全に関する具体的な活動などについて話を聞いた。また、滋賀県では琵琶湖博物館を視察し、行政・市民が一体となった琵琶湖の環境保全の取り組みに関するレクチャーを受けた後、館内の展示を視察し、琵琶湖の豊かな水環境について理解を深めた。水問題は中国でも深刻な問題であり、高校生たちは、普段何気なく使用している水の大切さを学び、身近な生活の中で何ができるのか、節水意識を持つことの重要性について深く考えるよい機会となった。

## 同世代の青少年同士、親睦を深める

中国高校生は、前半は東京都と千葉県の高校5校、後半は大阪府の高校6校を訪問し、各校で温かい歓迎を受けた。英語・音楽・美術・体育・調理実習・実験など、さまざまな授業に参加したほか、柔道・剣道・書道・茶道・卓球・バスケットボールなどの部活動も体験した。交流会では日中両国高校生でパフォーマンスを披露したり、お茶やお菓子を食べながらざっくばらんに懇談するなど、多彩なプログラムに参加した。高校生たちは、お互いの学校生活の違いに驚いたり、英語や筆談、ジェスチャーのほか、スマートフォンを活用して同世代共通の話題で盛り上がり、各校で楽しいひと時を過ごした。

また早稲田大学と慶應義塾大学の訪問では、歴史ある大学の概要や中国人留学生の体験談を聞くなどした後に、キャンパスを見学し、

日本の大学の学術的な雰囲気を感じた。さらに京都府では、京都外国語大学で中国語を専攻する大学生や中国人留学生とともに嵐山を訪ね、周恩来総理の詩碑や風情ある竹林を散策、続く昼食交流会では食事をしながら語り、青少年同士の親睦を深めた。



中国高校生が歓迎会で中国功夫を披露

そのほか一行は、東京都ではパナソニックセンター東京・TNM&TOPPAN ミュージアムシアター・浅草寺・皇居二重橋、滋賀県では比叡山延暦寺、京都府では金閣寺・平安神宮を参観した。日本文化体験として和風温泉旅館にも宿泊し、着物の着付け体験や日本舞踊に関するレクチャーを受け、扇子を使った優雅な『祇園小唄』の踊りにも挑戦した。これらさまざまなプログラムを通して、日本の歴史・文化・自然や最先端技術など、クールジャパンを体感し包括的な日本理解に努めた。



琵琶湖の環境保全の取り組みについて学ぶ  
(琵琶湖博物館)

中国高校生からは、「初めて同世代の日本人と交流したが趣味や将来の夢など、共通していることがたくさんあった」「中国でも深刻な水問題について考えるきっかけになった」「日本企業の技術力の高さや、伝統文化の継承は中国も見習うべきだと思う」「日本の高校や訪問先の方々温かく接してくれて嬉しかった」「将来は日中関係に貢献できるような仕事に就きたい」など思い思いの感想が聞かれた。

本団の受け入れにご協力くださった関係機関・関係者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

## ◆「JENESYS2.0」中国母子保健代表団が来日

2015年6月28日から7月2日までの日程で、中国母子保健代表団(団長=王巧梅 中国国家衛生・計画生育委員会 婦女児童健康服務司副司長)が来日した。本団は、中国国家衛生・計画生育委員会を中心とした、北京及び地方の母子保健関連機関や病院で活躍する青年で構成された計32名で、外務省が推進する「JENESYS2.0」の一環として招聘した。

代表団は、一般社団法人親子健康手帳普及協会が主催する母子手帳に関する勉強会に参加したほか、東京都・神奈川県・群馬県にて、産科医院や保健所などの施設を訪問・視察し、日本の母子保健に関する制度や運営システムに対する理解を深めた。また、歴史的建造物の参観や日本文化体験など、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めた。

### 日本の母子健康手帳、母子保健事業を理解

一行は、親子健康手帳普及協会(顧問=福田貴代子 元総理夫人、高村治子 自由民主党副総裁・元外務大臣夫人)が主催する勉強会

に参加し、「日本の母子手帳の内容と沿革」（厚生労働省）、「海外での母子手帳の普及例」（JICA）、「日中併記版母子手帳の説明」（親子健康手帳普及協会）をテーマとしたブリーフを受けたほか、代表団の王団長も「中国母子保健事業 発展と展望」についてブリーフを行い、汪婉 中国大使夫人をはじめとした各国の駐日本国大使夫人など多くの参加者とともに、日本と他国における母子手帳の普及状況や、母子保健事業の概要について学んだ。勉強会後のレセプションには福田康夫元総理と程永華大使も出席して団員と交流し、中国における母子健康手帳の普及にかかる日中間の協力について確認しあう場となった。



母子手帳に関する勉強会にて 写真右より高村夫人、福田夫人、王団長、汪婉夫人、代表団幹部

## 東京・神奈川・群馬で訪問視察を実施、関係者と交流

東京の愛育病院を訪問し、妊婦・乳幼児の健診や保健指導等についての説明を受けたほか、院内の施設を視察し、日本の産科医院が実施している事業や設備に関する知識を深めた。

また、神奈川県では横浜市役所・横浜市中区福祉保健センター、群馬県では高崎市保健所を訪問し、それぞれの地域の概況に対応した具体的な母子保健事業についての説明を受け、乳幼児健診が行われる現場を視察した。



高崎市保健所にて子ども健診センターを視察

各訪問先で、団員からは、健診対象者に受診の通知をする際の病院と自治体の連携について、他県に転居した場合や手帳を紛失した際に必要な手続きについて、母子保健に関するデータの収集方法についてなど、さまざまな質問が挙がった。多くの団員が今回の訪日活動を通して勉強になったこととして、日本の母子手帳の内容や配布方法が整っていること、母子保健にかかる保障が充実していること、病院や自治体が乳幼児にだけでなくその両親に対する教育やケアも重視していることなどを挙げた。

そのほか、東京では皇居・二重橋、千葉では成田山新勝寺を参観した。群馬では岩井賢太郎富岡市長の歓迎を受け、世界遺産の富岡製糸場を見学し、高崎だるまの絵付け体験や和風旅館での温泉体験も行うなど、日本の歴史や伝統文化に触れることができた。

5日間の多彩な活動を通じて、団員は母子保健分野はもちろん、幅広く日本に対する理解や関心を一層高め、日本を身近に感じる経験となった。

本団の受け入れにご協力くださったご関係の皆様、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)



## 会館行事と人の動き 6/1～30

## ● 会館行事

- 5/26～6/2 ▶ 「JENESYS2.0」中国リハビリ関係者代表团第2陣 来日 (6/1 同団歓送報告会)  
5/28～6/28 ▶ 主催展「ピリリ！と面白い 中国漫画展」  
6/2～6/9 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第20陣 来日 (6/3 同団歓迎会、6/8 歓送報告会)  
6/4、6/18 ▶ 後楽会気功・中国画教室  
6/5 ▶ 「ピリリ！と面白い 中国漫画展」ミュージアムコンサート (古琴)  
6/8 ▶ 第16回理事会  
6/9 ▶ 「ピリリ！と面白い 中国漫画展」絵手紙体験講座  
6/10～6/17 ▶ 「JENESYS2.0」中国社会科学院青年研究者代表团第1陣 来日  
(6/11 同団歓迎会、6/16 歓送報告会)  
6/16 ▶ 「ピリリ！と面白い 中国漫画展」記念講演会・交流茶話会 (後楽会談話会合同企画)  
6/16～6/24 ▶ 「JENESYS2.0」2015年度中国高校生訪日団第1陣 来日  
(6/17 同団歓迎会、6/23 歓送報告会)  
6/17 ▶ 後楽寮新入寮生懇親会  
鄭祥林氏来日  
6/22 ▶ 第8回評議員会、鄭祥林中国代表理事 就任  
6/28～7/2 ▶ 「JENESYS2.0」中国母子保健代表团 来日  
6/30～7/7 ▶ 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第21陣 来日

## ● 来館・訪問・面会

- 6/3 ▶ 日中友好協会 田中義教理事長 来館 (武田理事長)  
6/4 ▶ 日立建機(株) 木川理二郎会長 訪問 (武田理事長)  
6/11 ▶ 南開大学外国語学院 閻国棟院長他2名 来館  
▶ NHK エデュケーショナル 貫井語学部主任プロデューサー 来館 (荒井常務理事他)  
6/16 ▶ 文京区役所 成澤廣修区長 訪問 (荒井常務理事)  
6/23 ▶ 中国留日同学総会 汪先恩会長 来館 (武田理事長)  
6/25 ▶ (株)三菱総合研究所 訪問 (武田理事長、総合交流部)

## ● 行事参加、その他の活動

- 6/1 ▶ 京東日本館開設セレモニー (武田理事長)  
6/7 ▶ 中国大使館教育処主催 留学生学友会幹部交流勉強会 (夏部長、後楽寮生)  
6/11 ▶ 大英博物館展観覧 (後楽寮生)  
6/19 ▶ 新疆出身者優秀自費留学生奨学金授与式 (夏部長、後楽寮生)  
6/27 ▶ 東京都日中友好協会レセプション (武田理事長)

6/18～ 鄭祥林中国代表理事 着任挨拶

- 6/18 ▶ 日本中国友好協会 丹羽宇一郎会長、日中協会 白西紳一郎理事長  
6/19 ▶ 江田五月会長  
6/23 ▶ 宮本雄二副会長  
6/25 ▶ 中国大使館 程永華大使、劉少賓公使  
6/26 ▶ 東京華僑総会



発行

2015年8月1日発行 第314号

公益財団法人 **日中友好会館**

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目5番3号

電話(03)3811-5317 FAX(03)3811-5263

<http://www.jcfc.or.jp/>